



TITLE:

京大広報 No. 505

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 505. 京大広報 1996, 505: 91-100

ISSUE DATE:

1996-08

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209260>

RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.



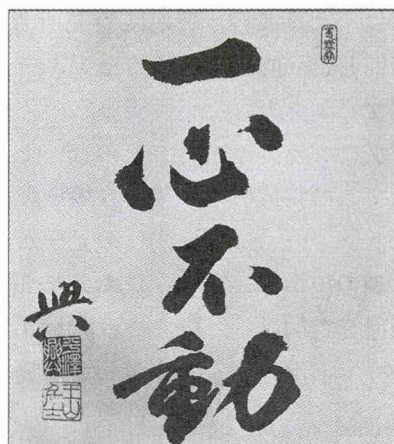
京大広報

No. 505

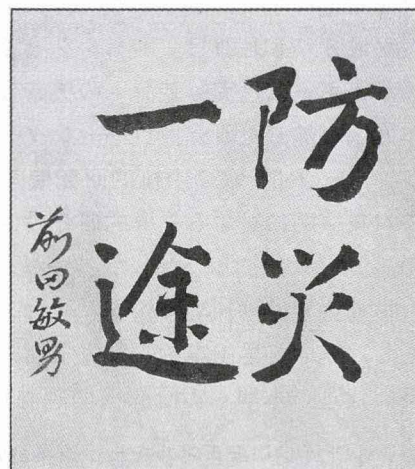
1996. 8



鳥養利三郎 元総長書



平澤 興 元総長書



前田敏男 元総長書

—関連記事本文98ページ—

目次

〈大学の動き〉

井村総長、アメリカ合衆国訪問……………92

〈部局の動き〉

超高層電波研究センター

マイクロ波エネルギー伝送実験装置披露会……………92

故内田温士放射線生物研究センター教授

追悼式……………93

舎密局・三高文書史料の整理保存作業終了……………93

〈日誌〉……………94

〈訃報〉……………94

〈公開講座の終了報告〉

工学部「都市を支える工学」……………95

人文科学研究所「歴史研究の新しい地平」……………95

〈文化交流〉

大英帝国の残照

—イギリスとオーストラリア—

中西 寛……………96

〈随想〉

揮 毫 名誉教授 土屋 義人……………97

〈京都大学の百年（第20回）〉

創立期の陸上競技運動会……………98

〈資料〉

平成7年度歳入・歳出決算額及び

対前年度比較調……………99

平成8年度京都大学職員研修実施計画……………100

大学の動き

井村総長、アメリカ合衆国訪問

井村総長はカリフォルニア大学サンフランシスコ校及びバークレー校における教官・研究交流に関する調査と第10回国際内分泌学会出席のため6月8日から16日までの間アメリカ合衆国に出張した。

サンフランシスコ校では、学長等関係者と学術研究交流に関する諸問題の調査と情報の交換を行い、

バークレー校においては、来秋実施予定の京都大学国際教育プログラムに基づく短期留学生交流に関し意見の交換を行った。

第10回国際内分泌学会には、会長として出席したものである。

部局の動き

超高層電波研究センター「マイクロ波エネルギー伝送実験装置」披露会

平成8年6月21日、本センターでは「マイクロ波エネルギー伝送実験装置」の披露会を開催した。昨年度、卓越した研究拠点—センター・オブ・エクセレンス（COE）—の中核的研究機関支援プログラムの対象機関に対する先導的研究設備としてこの装置の設置をみることになった。

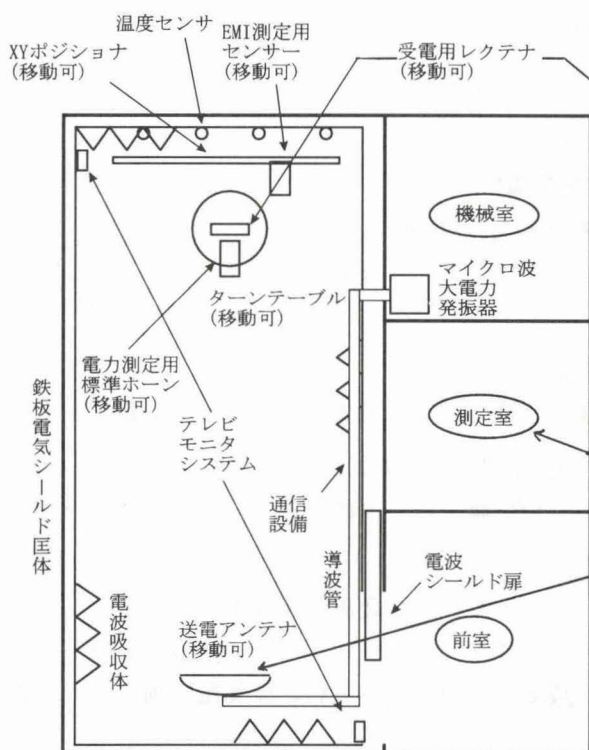
披露会では、初めに松本 紘センター長の挨拶があり、続いて早田憲治文部省学術国際局研究機関課長（代理 本間 実研究機関課課長補佐）、宇治地

地区研究所長会議世話部局の高橋 保防災研究所長、センター運営委員会委員で核融合科学研究所企画調整官の佐藤哲也教授から来賓祝辞があった。

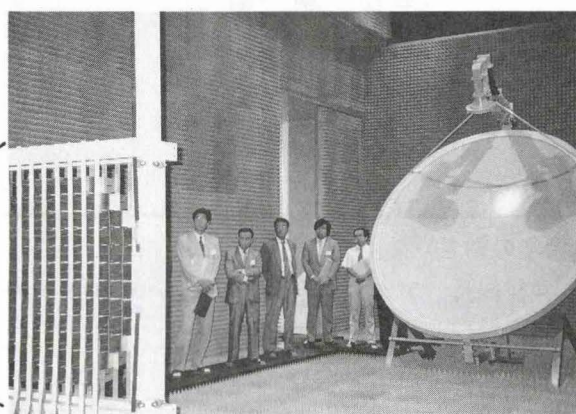
その後、ビデオによる実験装置の紹介があった後、会場を装置実験棟に移し、装置内部（電波暗室内）の見学が行われた。

なお、披露会には研究者や関係者約60名、センター教職員20数名の出席があり、今後の電波応用の先導的な研究への期待が寄せられた。

マイクロ波エネルギー伝送実験装置平面図



電波暗室の天井に
・空調設備・低雑音照明設備・暗室内クレーン



送電アンテナ



測定機器群

(超高層電波研究センター)

故内田温士 放射線生物研究センター教授 追悼式

4月24日逝去された故内田温士教授の追悼式が放射線生物研究センター主催により、6月24日（月）

午後2時から4時まで医学部B棟基礎第1講堂において、執り行われた。

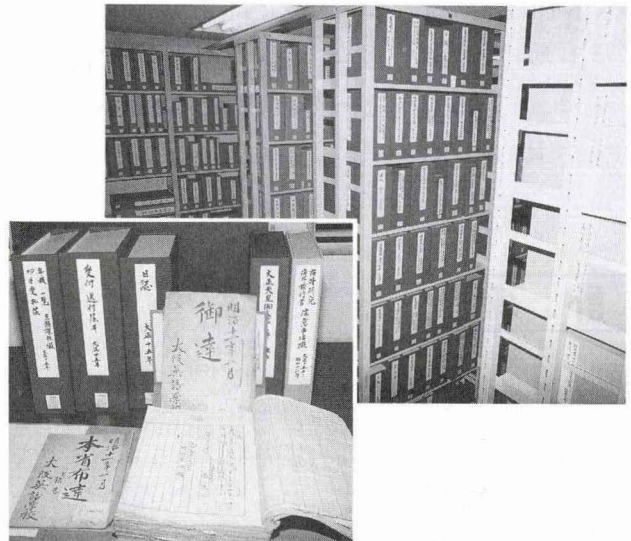
（放射線生物研究センター）

舎密局・三高文書史料の 整理保存作業終了

京都大学の源流である舎密局^{せいみきょく}は明治2年に開設された。その後10数回の校名変更を経て、明治27年に第三高等学校へと発展した。昭和25年に第三高等学校が閉鎖されて、京都大学教養部になるまでの約80年間にわたる膨大な文書類が、総合人間学部図書館に受け継がれてきた。文部省の通達と文部省への報告などの行政文書がほぼ完全な形で残されているのをはじめ、教職員名簿、生徒名簿、校費文書類、建物台帳、各種教科書、試験問題、生徒の作文や身体検査表、入学宣誓書、写真集、印章類などいろいろな文書類が保存されてきた。明治維新後、近代国家として歩みだした日本の高等教育がどのように発展してきたかを知るうえで、これらはきわめて貴重な学校教育史料である。

これらの文書類は、開架式書棚に年代順に山積みされていたが、永年の間に埃をかぶり、閲覧される度に傷みや乱丁、紛失が増えてきた。このまま放置すれば、史料としての価値が急速に失われるものと、関係者が憂慮する状態になっていた。

総合人間学部では、平成6年6月、保存のための整理作業に着手することにした。もうこれ以上放置できないと考えたからである。整理保存作業を進める上で、故阪倉篤義名誉教授を中心とした旧教養部教官による「神陵史資料研究会」の整理保存にたいする熱意と指導があり、学内教育研究特別経費の配分を受けることができ、作業担当者に最適任者が得られたことなどの好条件が揃ったことは誠に幸いなことであった。文書の内容目録を整備して索引で検索できるようにするとともに、いろいろなサイズと分量の文書がぴったり入る大小様々な帙を特別に注文し、すべての文書類を良質の帙に納めることにした。担当者大沢紀子氏のご努力により、作業は順調



（整理された史料）

に進み、平成8年6月、今回の整理保存作業を2年間という短期間で、終了することができた。

総合人間学部図書館の2階の1室に、これらの史料は約1,000個の帙に整然と年代順、内容別に並べられて、収納された。学内外からの求めに応じて、研究目的に限り特別に史料の閲覧を認めることにしている。総合人間学部に残されたこの貴重な文化遺産が、大切に保存されながら、研究に大いに活用されていくことを願っている。

この作業開始後まもなくの平成6年10月に急逝された故阪倉篤義名誉教授も、作業終了を冥界で喜んでいただいているものと思う。作業に関係した多くの方々のご協力に心より感謝したい。

この整理保存作業の完了を記念して、7月8日（月）夕に、披露・祝賀会を開催した。総長、図書館長をはじめ学内外の関係者をお招きして、まず資料室を見ていただいた後、芝蘭会館での祝賀会に移り、貴重な史料が整理保存されるようになったことを共に喜びあった。

（総合人間学部）

日誌

1996年6月1日～6月30日

6月8日 総長、カリフォルニア大学サンフランシスコ校及びパークレー校における教官・研究交流に関する調査と第10回国際内分泌学会出席のためアメリカ合衆国を訪問(16日まで)

〃 工学部公開講座「都市を支える工学」(以降、15日、22日)

12日 創立記念行事(音楽会)

13日 ベトナム社会主義共和国 国立自然科学技術センター Dang vu Minh 所長他8名来学、総長及び関係教官と懇談

18日 創立99周年記念式典

18日 名誉教授懇談会

19日 国際交流委員会

20日 タンザニア連合共和国 ソコイネ農業大学 Anselm Biseko Lwoga 学長他1名来学、総長及び関係教官と懇談

〃 防火委員会

21日 附属図書館商議会

〃 同和・人権問題委員会

25日 評議会

28日 オランダ王国 Andreas van Agt 元総理大臣(元ナイメーヘン大学法学部教授)来学、総長及び関係教官と懇談

計 報

多羅間公雄 名誉教授

本学名誉教授 多羅間公雄先生は、6月13日逝去された。享年81。

先生は、昭和14年京都帝国大学工学部工業化学科を卒業、同大学工学部助教授を経て昭和24年教授に就任、燃料化学科第3講座(昭和38年触媒化学講座に改称)を担当された。昭和54年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。

本学退官後は、昭和57年3月まで岡山理科大学大学院理学研究科講師を務められた。

先生は触媒化学、中でも固体触媒の作用機構に関する基礎的研究において優れた研究業績を残され、その発展に寄与されるとともに、石油化学の分野において多大の貢献をされた。主な著書に『触媒物性論』、『反応別触媒分類表』等がある。

また、触媒学会、石油学会、日本化学会などにおいて、会長、評議員、支部長等の要職を歴任された。これら一連の研究教育活動、学会活動により、昭和63年11月勲二等瑞宝章を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(大学院工学研究科)

土井悦四郎 名誉教授



本学名誉教授 土井悦四郎先生は、6月16日逝去された。享年65。

先生は、昭和28年京都大学農学部を卒業、引き続き同大学院で学ばれた後、同大学食糧科学研究所助手、講師、助教授を経て、昭和55年教授に就任、食糧化学部門を担当された。平成6年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。退官後は平成8年5月まで近畿大学生物理工学部教授を務められた。

先生は植物細胞の新規カルボキシペプチダーゼ類の発見をはじめ、液胞、植物酵素、細胞器官の分野で先駆的研究をされた。また食品加工の研究領域では、従来の物理化学的研究手法に加えて生化学的手法を組み入れることにより、食糧科学に一分野を確立され、優れた研究業績を残された。平成4年には「食品タンパク質の加工特性に関する研究」によって日本食品工業学会賞を受賞、平成6年から平成8年にかけて日本食品科学工学会の会長を務められた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(食糧科学研究所)

西口 猛 名誉教授



本学名誉教授 西口 猛先生は、6月24日逝去された。享年71

先生は昭和22年9月京都帝国大学農学部農林工学科を卒業、埼玉県農務部、農林省東京農地事務局を経て、昭和42年3月京都大学農

学部教授に就任し、新設の農業工学科農地計画学講座を担任された。昭和63年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。

先生は、モミガラ壁式暗渠排水の研究、農村整備計画策定手法の研究、農村土地利用計画手法の研究

等農業土木学、農村計画学の分野で先進的な研究に取り組まれ、農村整備事業の推進に多大の貢献をされた。特に農業土木学の研究者の中でもいち早く水質問題に目を向け、渡良瀬川の鉍毒水による農業用水の汚濁問題や農業集落排水における高度污水处理技術に関する研究に顕著な業績をあげられた。

また、農業土木学会理事、同京都支部長を務められた他、新しい学際的研究分野である農村計画学会の創設に尽力され、第2代の会長を務められ、さらに、第13期日本学術会議会員としても活躍された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(農学部)

公開講座の終了報告

工学部「都市を支える工学」

工学部では、平成8年度公開講座（第16回）を6月8日から6月22日までの間、3回にわたり土曜日の午後1時30分から午後5時まで、本学部電気総合館において開催した。受講者は95名、内64名が全講義を受講した。

本年度の講義は「都市」を主題とし、6名の教官がさまざまな視点から都市の問題、将来の展望について講演を行った。各講演とも多くの質疑応答があったが、なかでもコンピュータ実演、研究施設の見学では多数の参加者から活発な質疑があった。

講義題目、講師は次のとおりであった。

地震と橋	渡邊 英一
都市生活と交通：持続的都市交通システムの構築に向けて	北村 隆一
世界とつながる都市の情報インフラ	
—メディアとしてのインターネット—	美濃 導彦
コンピュータによる情報通信	
—実演と体験—	石黒 浩
歴史都市「京都」の過去・現在・未来	
	高橋 康夫
都市生活を支える電気エネルギー	原 武久
	(工学部)

人文科学研究所

「歴史研究の新しい地平」

人文科学研究所では、下記公開講座を7月5日及び7月6日の2日間、午後2時から午後5時まで本研究所本館大会議室において開催した。

1949年以来47回目を迎えた本年の講座は、「歴史研究の新しい地平」を共通テーマとし、延べ200名を越える受講者があった。

講義題目と講師は次のとおりであった。

アジアの海と日本	
—地域の連鎖のなかで動く人々を見つめて—	籠 谷 直 人
中国の古代を掘る	
一日中共同発掘の現場から—	岡 村 秀 典
士族は没落したか？	落 合 弘 樹
歴史における事実と真実	
—孫文の三民主義と毛沢東の解釈を例として—	狭 間 直 樹
	(人文科学研究所)

秩序を模範とさせるためだったのである。前述のプログラムを送付した案内状に「御来場ノ節ハ此案内状御持参被下度又男子ハ洋服或ハ羽織袴御着用被下度候也」と見物人にも正装をもとめたのも木下のこ

のような考え方によるものだったのだろう。

一見牧歌的にも見える創立期の競技運動会にも厳しい教育の意図が込められていたのである。

(百年史編集史料室)

資料

平成7年度歳入・歳出決算額及び対前年度比較調

(文部省所管国立学校特別会計)

区 分	平成7年度決算額	平成6年度決算額	差 引 増 △ 減 額	増△減率
歳 入	円	円	円	%
附 属 病 院 収 入	16,641,935,213	15,843,968,678	797,966,535	5.04
授 業 料 及 入 学 検 定 料	9,079,692,550	8,626,111,500	453,581,050	5.26
学 校 財 産 処 分 収 入	43,700,000	0	43,700,000	
雑 収 入	4,495,330,213	3,865,355,905	629,974,308	16.30
合 計	30,260,657,976	28,335,436,083	1,925,221,893	6.79
歳 出				
国 立 学 校	51,578,584,373	49,563,503,625	2,015,080,748	4.07
人 件 費	32,255,840,015	31,726,876,287	528,963,728	1.67
物 件 費	19,322,744,358	17,836,627,338	1,486,117,020	8.33
大 学 附 属 病 院	20,389,403,381	19,750,931,189	638,472,192	3.23
人 件 費	8,652,703,497	8,527,811,739	124,891,758	1.46
物 件 費	11,736,699,884	11,223,119,450	513,580,434	4.58
研 究 所	14,573,881,037	13,452,233,228	1,121,647,809	8.34
人 件 費	8,563,097,881	8,287,517,784	275,580,097	3.33
物 件 費	6,010,783,156	5,164,715,444	846,067,712	16.38
施 設 整 備 費				
物 件 費	20,097,217,500	12,124,352,050	7,972,865,450	65.76
特 別 施 設 整 備 費				
物 件 費	1,410,720,000	1,041,512,000	369,208,000	35.45
合 計	108,049,806,291	95,932,532,092	12,117,274,199	12.63
人 件 費	49,471,641,393	48,542,205,810	929,435,583	1.91
物 件 費	58,578,164,898	47,390,326,282	11,187,838,616	23.61

平成 8 年度京都大学職員研修実施計画

平成 8 年度における研修実施計画は、次のとおりです。

今年度より新たに初任者教育研修（前期，後期）が実施され，また従来の新採用職員研修に（Ⅱ）が加えられました。

研 修 の 名 称	実 施 時 期	対 象	予 定 人 員	研 修 場 所	備 考
新 採 用 職 員 研 修	4/9～4/12 (4 日間)	新 採 用 職 員 (他機関を含む)	70	国立若狭湾少年自然の家	4/9 附属図書館
主 任 研 修	9/9～9/12 (4 日間)	主任 (他機関を含む)	70	国立若狭湾少年自然の家	9/9 楽友会館
監 督 者 (係長級) 研 修	11/12～11/15 (4 日間)	係長 (他機関を含む)	70	国立曽爾少年自然の家	11/12 楽友会館
技 術 職 員 研 修 (第16回)	7/16～7/18 (3 日間)	行 (一) 教室系技術 職員 (他機関を含む)	50	楽友会館ほか	
〃 (第17回)	2/18～2/20 (3 日間)	〃	50	〃	
語 学 研 修 (英語・初級コース)	5/10～7/16 (40時間)	事務系・技術系職員	16	楽友会館	週 2 回 午後 1 回 2 時間
〃 (英語・中級コース)	9/27～2/14 (60時間)	事 務 職 員	8	〃	週 2 回 午前 1 回 2 時間

新採用職員研修 (Ⅱ)	4/15～4/16 (2 日間)	新 採 用 職 員	40	楽友会館	
初任者教育研修 (前期)	5/15～9/30	新 採 用 職 員	19	楽友会館ほか	毎週水曜日午後
〃 (後期)	10/16～1/29 (予定)	〃	13	〃	〃
実務講習会 (庶務系)	9/30～10/3 (4 日間)	実 務 担 当 職 員	延べ160	楽友会館	
〃 (経理系)			延べ160		
〃 (施設系)			延べ 40		
〃 (教務系)			延べ 80		

